

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **10251143 A**

(43) Date of publication of application: **22.09.98**

(51) Int. Cl

**A61K 9/48**

**A61K 47/46**

(21) Application number: **09070904**

(71) Applicant: **SANSEI IYAKU KK**

(22) Date of filing: **10.03.97**

(72) Inventor: **KONDO TAKASHI**

**(54) SOFT CAPSULE**

**(57) Abstract:**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a soft capsule preventing stink from its content and improving the utility, by including parsley oil and/or parsley seed oil in a soft capsule containing matter(s) having strong odor.

**SOLUTION:** This capsule is prepared by adding (B) 0.1-50wt.% parsley oil and/or parsley seed oil based on the component A to (A) an oily liquid content composed

of matters having strong odor such as garlic, DHA, liver oil, or black-baked egg oil, followed by encapsulation by the rotary filling method, the dropping methods, or the like. For the encapsulating film, gelatin, agar, carrageenan, or gelan gum can be adopted. Component B is a natural edible oil and has an action to mask other strong odors while having a strong odor per se. Thus, mutual dissolution of components A and B surely suppresses the stink of the component A.

**COPYRIGHT:** (C)1998,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-251143

(43) 公開日 平成10年(1998) 9 月22日

(51) IntCl.<sup>8</sup>

識別記号

F I

A 6 1 K 9/48  
47/48

A 6 1 K 9/48  
47/48

E  
L

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平9-70904

(22) 出願日 平成9年(1997) 3 月10日

(71) 出願人 396020279

三生医薬株式会社

静岡県清水市入江3丁目10番21号

(72) 発明者 近藤 隆

静岡県清水市入江3丁目10番21号

(74) 代理人 弁理士 塩川 修治

(54) 【発明の名称】 ソフトカプセル

(57) 【要約】

【課題】 強臭性物質を内容物とするソフトカプセルの悪臭を中和し、その利用性を向上すること。

【解決手段】 強臭性物質を内容物とするソフトカプセルにおいて、内容物にバセリオイル及び／又はバセリシードオイルを添加してなるもの。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 強臭性物質を内容物とするソフトカプセルにおいて、

内容物にバセリオイル及び／又はバセリシードオイルを添加し強臭を低下又は中和したことを特徴とするソフトカプセル。

【請求項2】 前記バセリオイル及び／又はバセリシードオイルの添加重量を、内容物の重量の0.1～50%としてなる請求項1記載のソフトカプセル。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は化粧品、調味油等の一般食品健康食品及び医薬品等を構成して好適なソフトカプセルに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、入浴剤や調味料や健康食品として、にんにく、DHA、肝油、黒焼卵油等の必ずしも好ましくはない臭いを発する強臭性物質を有効成分としたソフトカプセルが用いられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】然しながら、強臭性物質を内容物とするソフトカプセルには、以下の問題点がある。

①強臭性物質の悪臭がソフトカプセルの皮膜を通してソフトカプセル外に放散し、ソフトカプセルを飲用しにくいものとする。ソフトカプセルをびん等に保管している場合には、飲用に際してびん等を開封したときにびん等の内部に充満していた悪臭が直ちに飲用を阻害する。

【0004】②ソフトカプセルを飲用後、皮膜の溶解により胃袋内に充満した強臭性物質の悪臭が食道を逆流して口臭となる。

【0005】③にんにく等の強臭成分を有効成分とするバセリオイルカプセルでは、入浴時ににんにく臭が発生し、肌に有効であっても、快適な入浴とはならない。

【0006】尚、強臭性物質の悪臭を抑制する方法として、一般に強臭性物質に香料を添加して臭いを変えたり、強臭性物質に吸着剤を添加して臭いを吸着除去することが行われていた。ところがソフトカプセルは内容物が油性であり従来の悪臭抑制成分は油性液との混和性が十分でなく、結果として、十分な悪臭抑制効果を得ることができない。

【0007】本発明の課題は、強臭性物質を内容物とするソフトカプセルの悪臭を抑制し、その利用性を向上することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】粉末や水溶液の悪臭抑制成分はカプセル内容液（油性液）と完全に溶解しないことから、油状成分で、悪臭抑制効果を有する各種油をスクリーニングした所、驚くべき事に、バセリオイル又はバセリシードオイルはそれ自体必ずしも好ましくない強臭

を有していながら、別の強臭成分と混合すると、それぞれが中和しあい、悪臭抑制効果を有することを見いだした。

【0009】請求項1に記載の本発明は、強臭性物質を内容物とするソフトカプセルにおいて、内容物にバセリオイル及び／又はバセリシードオイルを添加してなるようにしたものである。

【0010】請求項2に記載の本発明は、請求項1に記載の本発明において更に、前記バセリオイル及び／又はバセリシードオイルの添加重量を、内容物の重量の0.1～50%としてなるようにしたものである。

【0011】

【作用】請求項1に記載の本発明によれば下記①の作用がある。

①バセリオイル、バセリシードオイルは、天然の食習慣のある油であり、それ自体強臭がありながら、他の強臭を抑制する作用を備える。即ち、バセリオイル、バセリシードオイルは、その油性の故に、ソフトカプセルの内容物である油性液（強臭性物質）とお互いに良く溶け合い、その強臭性物質に十分な消臭作用を及ぼし、強臭性物質の悪臭を確実に抑制する。

【0012】請求項2に記載の本発明によれば下記②の作用がある。

②バセリオイル及び／又はバセリシードオイルの内容液に対する添加比率（重量比）が、0.1%より少ない場合には悪臭抑制効果が十分でなく、50%より多い場合にはバセリ臭が強くなり、逆にソフトカプセルの味覚及び臭いを好まなくなる。従って、添加比率は0.1～50%とするのが好適である。

【0013】

【発明の実施の形態】本発明のソフトカプセルは、ゼラチン等を皮膜とし、にんにく、DHA、肝油、黒焼卵油等の強臭性物質を内容物とするものを、ロータリー充填法、滴下法等によりカプセル化するに際し、予め内容物にバセリオイル及び／又はバセリシードオイルを添加しておくことにて製造される。

【0014】このとき、内容物に対するバセリオイル及び／又はバセリシードオイルの添加比率（重量比）は、0.1～50%とするのが好適である。

【0015】尚、カプセル皮膜としては、ゼラチンに限らず、寒天、カラギーナン、ジェランガム等を採用するものであっても良く、本発明の対象は内容物が油性液のカプセル全てである。

【0016】本実施形態によれば、下記①、②の作用がある。

①バセリオイル、バセリシードオイルは、天然の食習慣のある油であり、然も消臭作用を備える。即ち、バセリオイル、バセリシードオイルは、その油性の故に、ソフトカプセルの内容物である油性液（強臭性物質）と互いに良く溶け合い、その強臭性物質に十分な消臭作用を及

ばし、強臭性物質の悪臭を確実に中和抑制する。

【0017】従って、ソフトカプセルの飲用前に、その皮膜内で内容物である強臭性物質の臭いはバセリオイル及びノ又はバセリシードオイルの消臭作用により消臭されており、その強臭性物質の臭いが皮膜を通してソフトカプセル外に放散して飲用を妨げる如くを防止できる。ソフトカプセルの保管びん等にその強臭性物質の臭いが充満することもない。

【0018】また、ソフトカプセルの飲用後に、皮膜の溶解により胃袋内に流出する内容物の強臭性物質の臭いがバセリオイル及びノ又はバセリシードオイルの消臭作用により既に消臭されており、強臭性物質の悪臭が食道を逆流して口臭となることもない。

【0019】②バセリオイル及びノ又はバセリシードオイルの内容物に対する添加比率を0.1%以上としたから、十分な悪臭抑制効果を確保できる。また、50%以下としたから、バセリ臭自体がソフトカプセルの味覚を阻害することもない。

【0020】

【実施例】ゼラチン皮膜（ゼラチンとグリセリンと水）により黒焼卵油を皮包したソフトカプセルに本発明を適用した。

【0021】即ち、内容物である黒焼卵油に0.1%、1%、10%、20%、50%の添加比率（重量比）でバセリオイルを添加したものをそれぞれ実施例1～5とし、この添加比率を0%、0.05%、60%とするものをそれぞれ比較例1～3とした。

【0022】そして、実施例1～5、比較例1～3のカプセルを6号規格ガラスびんに密栓して、40℃で1週間保管し、保管後、開栓時のびん内の臭い、カプセルの臭い・味覚及びカプセル服用後10分の口臭等を総合的に

人による官能試験で判定し、表1の結果を得た。表1において、○は良、×は不良である。表1によれば、添加比率が0.1%より少ないと黒焼卵油の悪臭を感じ（比較例1、2）、添加比率が50%より多いとバセリ臭による不快感を感じた（比較例3）。

【0023】即ち、表1より本発明の効果を確認できた。

【表1】

	添加比率	臭い	味覚
比較例1	0	×	○
比較例2	0.05	×	○
比較例3	25	○	×
実施例1	0.1	○	○
実施例2	1	○	○
実施例3	10	●	○
実施例4	20	○	○
実施例5	50	○	○

【0024】以上、本発明の実施の形態を詳述したが、本発明の具体的な構成はこの実施の形態に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲の設計の変更等があっても本発明に含まれる。

【0025】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、強臭性物質を内容物とするソフトカプセルの悪臭を中和抑制し、その利用性を向上することができる。